



景観に配慮した橋梁の色彩を検討しました。



袋井土木事務所では、「ふじのくに・色彩デザイン指針」を適用して景観に配慮した施設の整備を進めています。

11月29日(火)に静岡県景観懇話会委員である武蔵野美術大学造形学部の吉田慎悟教授をお招きし、掛塚橋等2橋梁について、周囲の景観との調和を見るため現地にカラーパネルやイメージパースを並べ、また、ドローンによる高所映像を活用し、色彩について助言・提言をいただきました。

今年度舗装工事を予定している掛塚橋(L=877m、天竜川)歩道部の舗装の色については、「橋梁本体の色相(深緑色)に合わせ、明度や彩度を下げた濃色が好ましい」との助言をいただきました。

また、河川改修に伴い架替え予定の市道橋「和口橋」(L=440m設計中、太田川)については、「耐候性鋼材の場合は、高欄を桁と同色のこげ茶系にすると重い感じとなるため、グレー系や亜鉛メッキなど明るめの色が好ましく、デザインを縦格子とする場合は、シャープなイメージが好ましい」と細部にわたり助言をいただきました。

袋井土木事務所では、いただいた助言・提案を参考にして、所内の景観検討委員会に諮り、周辺の景観に調和した橋梁の色彩を決定してまいります。



① 天竜川

掛塚橋歩道部の舗装の色彩検討



② 太田川

和口橋架替えのための色彩検討

